

# ゴールデンイヤー

和歌山県商工観光労働部 観光局長

榎本 善行

「ゴールデンイヤー」、この言葉をご存じでしょうか。もちろん一般的に使われる言葉ですが、今年の「第62回神宮式年遷宮（伊勢神宮式年遷宮）」、来年の「『紀伊山地の霊場と参詣道』世界遺産登録10周年」、和歌山デスティネーションキャンペーン（わかやまDC）、そして再来年の「高野山開創1200年」、「第70回国民体育大会（紀の国わかやま国体）」、「第15回障害者スポーツ大会（紀の国わかやま大会）」と大イベントが連続して開催される希有と言えるこの3年間を私たちはそう呼んでいます。

あわせて、今年3月に紀勢自動車道が紀伊長島ICまで開通し、今年度中には一部の区間を除いて熊野市まで延伸されます。これにより名古屋・伊勢方面から熊野地域へのアクセスが大きく向上します。そして、近畿自動車道の田辺 - すさみ間や京奈和自動車道を始め県内の幹線道路網もこの期間に大幅に充実する、本県にとって大きなチャンス of 3年間です。

## 1 本県の観光客数の状況

平成24年（暦年）の本県の宿泊、日帰りを合わせた観光客総数は2,916万人で、対前年比105.6%、災害前年の平成22年との比較では94.2%でした。また、外国人観光者の宿泊者数は12万人、対前年比146.3%、対平成22年比86.7%でした。昨年前半は風評等まだ平成23年の大水害の影響が残っていたことや、全国的な景気状況の中で平成24年通年では平成22年の観光客数に届きませんでした。

しかし、昨夏以降は、地域差はあるものの、総体としてはほぼ平成22年に近い水準に回復してきており、外国人観光客宿泊数では9月以降、平成22年の同月実績を上回っています。また、昨年の年末から今年の年始にかけての主要観光地の観光客総数は平成22年と比べても9%増加しており、今年に入ってから主要観光地へのヒアリング結果によると概ね順調に推移しています。

平成24年和歌山県観光客数(暦年)(単位:万人)

	平成 22年	平成 23年	平成 24年	対23年 増減	23年比	22年比
宿泊	509.1	433.9	464.7	30.8	107.1%	91.3%
(内外国人)	(13.5)	(8.0)	(11.7)	(3.7)	146.3%	86.7%
日帰	2,587.6	2,327.8	2,451.4	123.6	105.3%	94.7%
総数	3,096.7	2,761.7	2,916.1	150.7	105.6%	94.2%

## 2 「ゴールデンイヤー」の意義

県では「ゴールデンイヤー」を確実に誘客に繋げるため、市町村や関係の皆様と、この3年間を「和み(なごみ)」をテーマに効果的に連動させた取り組みを行っているところです。また、一般社団法人全国旅行業協会主催の「国内観光活性化フォーラム」を和歌山市で来年2月に開催していただくことになっているなど、この機に合わせての大会誘致等による協力の話もいただいております。ゴールデンイヤー3年間の観光客総数の目標は9,700万人としています。

そして、誘客はもちろん重要な事項ですが、ゴールデンイヤーのもう一つの大きな目標として本県の「観光力の強化」を置いています。

少子化による人口減少や観光客の嗜好、形態の多様化の中、海外を含め観光地間の競争も激しくなっています。そういった中で本県が「選ばれる観光地」となるために、観光が特に注目を浴びるこの機会を捉えて、観光資源・観光素材の開発と充実、市町村を含めた観光施策の充実、県全体の観光への理解・意識の向上を図るとともに、この期間に全国から訪れる多くの皆様に和歌山の魅力をアピールし、それにより観光立県を標榜する本県の観光が将来にわたって持続的に発展していく契機とすることを目指しています。

これに対する取り組みは、ゴールデンイヤーの中核イベントとして位置付けている「わかやまDC」を中心に行っており、以下でその概略を紹介します。

## 3 「わかやまDC」の取り組み

### 1) デスティネーションキャンペーン(DC)

DCはJR6社と地元自治体、観光関係団体等が協力して開催する大型キャンペーンです。期間中はテレビ番組「遠くへ行きたい」での和歌山の取り上げ、全国主要駅や大都市圏電車内での広告等JRグループの関連媒体を活用した集中宣伝が全国で展開されます。本県でのDC開催は平成16年秋以来で、今回で5回目となります。

### 2) 取り組みの考え方

先に述べた観光を取り巻く状況の中、観光客の滞在期間の延長、延泊を通じた観光消費の拡大と、おもてなしを含め、満足度の向上によるリピーター化の促進は外国人観光客の誘客増と並ぶ必須の事項です。

一方、本県の観光客は連泊率や現地での消費額が全国平均に比べ少ないと言われていています。これは、滞在中に気軽に楽しめたり、それ自体が来訪の目的の一つとなったりするようなりゾート地らしいアクティビティーやニューツーリズムの素材がまだ少ない、また、あるにしても認知度が低かったり手軽に申し込めるかたちになっていないということが要因の一つにあり、そのことが滞在時間や消費額に影響していると考えられます。

今回のDCでは、それらに対応するとともに、DC期間中だけでなく終了後も継続して実施される、もしくは近い将来の本格的な事業実施の誘因となるような素材、企画を多く組み込むことを意識しながら取り組みを行っています。

### 3) 事業の概要

わかやまDCでの事業は、大別すると観光素材の開発とブラッシュアップ、心からのおもてなし、キャンペーン特別企画の実施です。これらにJRグループと協調してのテレビや情報誌等の活用など、各種の情報発信を合わせて来訪の動機付けを図ります。

# 和歌山デスティネーションキャンペーン(わかやまDC)の概要

実施期間 平成26年9月14日(日)～12月13日(土)

[ プレDC:平成25年9月14日(土)～12月13日(金) ]

## ■ わかやまDC開催趣旨

- ・平成25～27年は本県観光振興の契機となる催事が3年連続で訪れる。
- ・3年間をつなぐ“柱”として、26年にわかやまDCを開催し、観光による県勢活性化を図る。

- 平成25年 伊勢神宮式年遷宮(20年毎)
- 平成26年 **世界遺産登録10周年**
- 平成27年 高野山開創1200年(50年毎)  
紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会

記念催事が連続  
“100年に1度”

## ■ 訴求テーマ

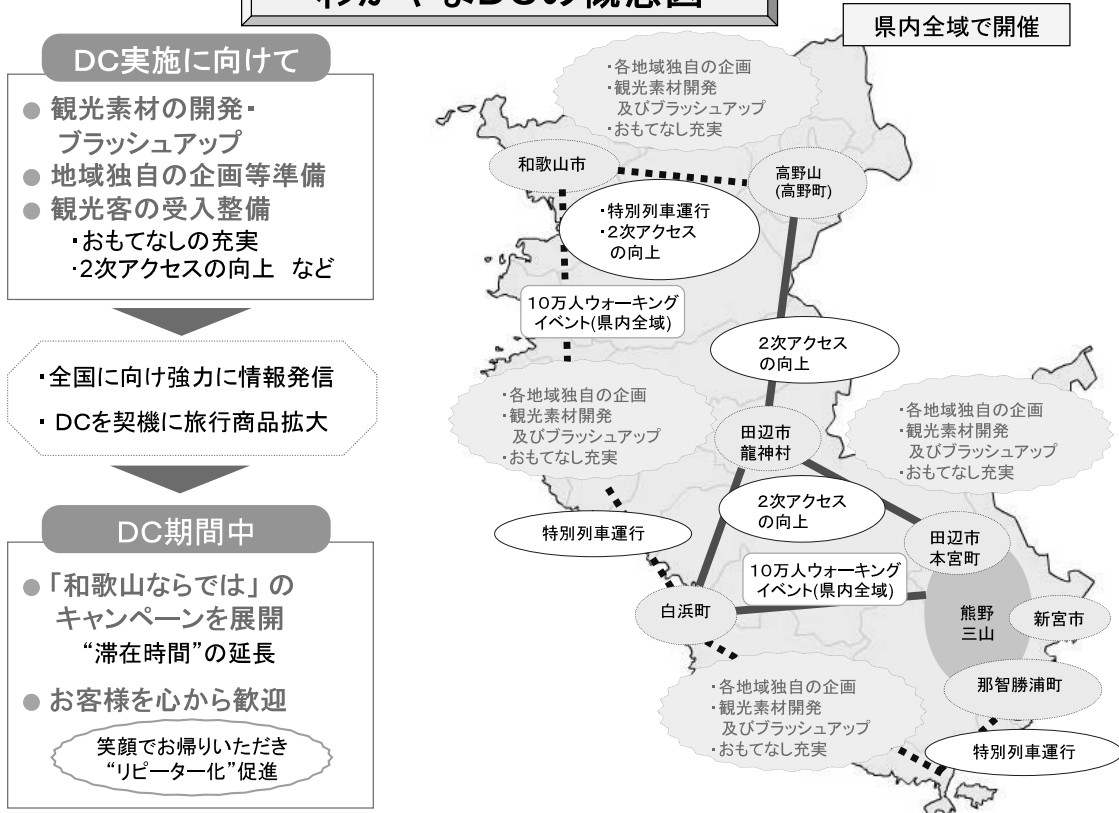
- 魅力あふれる観光素材で“お客様を和ませる”
- 心からの「おもてなし」で“お客様を和ませる”



- テーマ **和 (なごみ)**
- キャッチフレーズ

和み、和らぐ。和歌山からはじまる旅。

## わかやまDCの概念図



## 観光素材の新たな開発とブラッシュアップ

具体的には各地域、各事業者で取り組んでいただくものが多くなりますが、先端の工場や工場・伝統産業の見学・体験といった産業とのコラボレーション等の新企画の提供や、健康や美と組み合わせた温泉の活用、有名フードコーディネーターとのコラボレーションによる県産品を使った新しい食の開発など新しい観光素材の開発、既存の素材に中身や見せ方に工夫を凝らしたり、何かを加えたりすることで魅力をアップさせての提供を図ります。

併せて、観光客が各種の体験メニュー等を手軽に楽しむことができるよう、例えば近隣地域を含めた多種の体験メニュー等の受付を集約したワンストップ窓口をつくり、宿泊したホテルや旅館からも情報の取得や申込みができる仕組みづくりなどを行います。このような環境づくりによって、利用客の増大と、(今回すぐに出てくるといふわけにはいきませんが)バナナポートや、シーウォーカーといった本県には従来あまりないような多様なプログラムが生まれてくれば、と考えています。

また、「高野山町石道」や「熊野古道」など世界遺産地域を中心に、「雨」、「早朝」、「秋」といった様々なテーマを設定して、それぞれの楽しみ方やスポット、モデルコース等を開発、提案します。

## おもてなしの充実

選ばれる観光地になるためにはおもてなしの良さは必須要件です。そこで、例えば「観光客に積極的に声をかけ、道案内をします。」といったようなおもてなしの具体的な内容を宣言してもらう「おもてなし宣言」を県民運動として提唱し意識の向上を図るほか、タクシー等の交通事業者、宿泊施設、その他観光事業者について業種毎の研修を行う等により接遇の向上を図ります。

また、マスコミ等でも取り上げられましたが、「和歌山おもてなしトイレ大作戦」を展開して

います。公衆トイレも観光地のイメージを大きく左右する要素です。今年度と来年度の2年間で観光客が利用する公衆トイレや公共施設のトイレを、男性用小便器は自動洗浄式に、大便器は少なくとも男女それぞれ一つは洋式の温水洗浄便座にするもので、改修だけでなく清潔さを維持するよう管理手法についても十分な配慮を行います。あわせて駅等所有者が整備すべきものについても同様の対応をお願いしているところです。

## キャンペーン特別企画

世界遺産地域や追加登録を検討している古道を中心に「1万人ウォーク&トレッキング」として、期間中の週末は必ず県内のどこかでウォークイベントを開催するほか、主要観光地でのコンサート等のイベントや世界遺産登録10周年を記念しての世界遺産観光地サミット、和歌山マリーナシティやアドベンチャーワールド等の観光施設での特別企画や鉄道会社によるラッピング列車等の特別列車の運行など、県内全域でイベントを開催し、来訪の動機付けとアピールを図ります。

また、2次アクセスの向上のため、高野山 - 龍神 - 中辺路 - 本宮・白浜のアクセスバスを運行します。

(\*上記事業については、案や協議中のものも含まれています。)

## 3 終わりに

ゴールデンイヤーを本当に和歌山県にとって効果のあるものとするためには、県全体での盛り上がりが必要です。本誌をご覧になっている皆様もおもてなし県民運動に積極的に参加していただく等盛り上げに協力いただきますとともに、是非、観光客として宿泊観光やほんまもん体験などに参加いただきますようお願いいたします。